



2016教育改革推進!!

# AL授業実践レポート Vol.5

生徒の思考を活性化させる「問い」の宝庫でした!

9月8日(木) 6限/高3D(理系上位) / 数学  
担当: 斎藤先生

単元: 教科書応用~入試問題標準レベル3題  
目標: ①適切な場合分けができる。  
②文字の扱いに注意を払う。

~AL型授業での「問い」の大切さ~  
ALでは、生徒の思考を引き出す「問いかけ」が授業を構成する基盤になる。学習プログラムを創る有能なファシリテーターの発する言葉はほとんどが「訊く」ことであるとも言われる。様々な次元の質問を重ねていくことで、生徒の思考は進化・深化していく。

14:45~15:10

## 担当者説明+生徒からの質問+先生からの発問

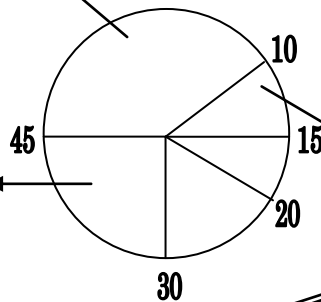


「どこが大事ですか?」  
「なぜそうなる?」  
「なぜそう説明する?」  
「何をイメージしてる?」  
「(この解法の) どこが賢い?」

自由討議であたたまって話しやすい空気になり、生徒の頭もずっと「考え中」の中、**先生からの発問によって問題の「要」が明確になっていく。**問いを重ねていくと、次第に問題のポイントが生徒自身の中で明らかになる。斎藤先生は極力解説しない。「上手にまとまった」美しい解説より、**生徒自身の気づきを促すほうが、「真の理解」につながる**からだ。

## 14:30~14:45 板書&自由討議

予習してきた解法について確認。ちょっとしたつまづきやミスはここで解消できる。ヒントをもらって続きを解いたり、自分より楽でスマートな解法を見つけた人に質問に行ったり、板書内容を見て疑問を出したり。**自由に疑問を出しているうちに場があたたまる。**



## 15:10~15:15 「方針立った人から座る」

「場合分けするの?」  
「グラフ描くの?」

問われた生徒は、「え?場合分けしなくていいの?」「グラフ描かなくてもいいのかな?」と**他の可能性に気づき、別解を考え始める。**そして最初は個で考えていた生徒たちだが、徐々に周囲と相談し始める。**他の解法が知りたいくて、みんな座らずにワイワイ!**

「生徒たちは「よかったです」と盛り上がります。立つから他のことしないし、「立つと考えなくなる」んです」(斎藤先生)



## リフレクションシートのコメントがいい！

<わかったこと・気付いたこと>  
 説明がスムーズには 図や表で  
 示すように

<わかったこと・気付いたこと>  
 必要資料を先に集めておく

<わかったこと・気付いたこと>  
 適切な場合分けをする  
 (状況に応じてやるように)

<わかったこと・気付いたこと>  
 想像の文字に表を

<わかったこと・気付いたこと>  
 置き場をたまたま、机の上の対応は気づけず

<今回の授業でわからなかったこと>

「リフレクションシートのコメントが具体的で  
 素晴らしいですね」(森内)

「個々に学んだことを振り返ることができ  
 ています」(斎藤先生)

「今日の授業のポイントをしっかり掴んでいるよ  
 うに思えます。どうしたらこんないいコメントが書  
 けるようになるんですか？」(森内)

「最初に目標を提示するからです。たまにうっ  
 かり忘れてしまうこともあるんですが、そのと  
 きは生徒の思考のポイントもスルーし、話し合  
 いの際も内容が浅くないがちです。やはり冒頭  
 の目標設定は必要なのだと感じています」(斎  
 藤先生)

## 授業後も教室で個々の学びは続く



AL 授業の理想形は、学びが「個→全体→個」と  
 最後は「個」に戻るのだと言われます。グルー  
 プ活動を入れると往々にして起こるのは「全体で  
 は楽しく活動するけど個の学びへと続かない」状  
 態。しかし、成績上位の生徒たちの場合は特に、  
 授業が学びの契機となり、生徒が個々にそれを深  
 めていく次元まで達することが理想です。そうな  
 ると真に「進学校としてのAL」が機能している  
 と言えます。斎藤先生の授業は、「個（予習）→  
 全体→個→全体→個……」という学びの切り替え  
 と発展がうまく構成され、生徒たちは数学を「考  
 える」ことそのものに楽しさ・充実感を見出して  
 いました。「こんな授業を私もやりたい」と思う  
 非常に魅力的な授業でした。(森内)